

第313回:外交とユーモア

今年三島由紀夫の生誕90周年、没後45年にあたる。早熟の天才と云うべきか、東大法学部を卒業して大蔵省に入ったとき、彼は既に「花ざかりの森」で作家デビューを果たしていた。大蔵省では新人作家が入省したということで、国会答弁の大臣発言原稿を何度か書かせたらしいが、三島の文章があまりに論理的で簡潔明瞭すぎたため、ボツにされたと云う。

最近企業内を跳梁跋扈する文書は、消毒済みのゴム手袋でもはめないと触れないような駄文拙文乱文揃いだ、こと国会に限っては与党も野党も納得するような玉虫色の解釈と、言質をとられない文章が重宝される。これを「霞が関文学」と呼ぶ。国会の想定問答がダメなら、演説原稿でも書かせようと考えた上司は彼に後樂園で開かれる国民貯蓄振興大会の大蔵大臣スピーチを命じたが、そこで三島は「笠置シヅ子さんの華麗なアトラクションの前に、私のようなハゲ頭がしゃしゃり出るのは、まことに艶消しであります」、とやっけてしまい、またもやボツになったと云う。

上司が握り潰し、日の目を見ることのなかった三島原稿は、あまり上品なユーモアとも思えないが、終戦間もない時代に、国民の貯蓄を総動員して日本復興に邁進するためには、大蔵大臣が自ら笑いものになる覚悟で国民に訴える必要があったと思う。

内政でも外交の場でも、ユーモアのセンスは必要だ。安倍晋三首相の今年4月の米国訪問は日米両国が不動の同盟国であることを確認し、経済的にも外交的にも中国を共同で牽制する姿勢を世界に示す結果となった。安倍首相は国賓級の待遇を受け、日本の首相として初めて上下両院合同会議で演説するなど、今年の訪米は日本の安全保障上、大きな前進となった。

安倍訪米は2年ぶりであったが、前回の米国の対応は淡白なものだった。それが「厚遇」に変化した原因は中国の露骨な覇権戦略にある。03年の安倍訪米で、オバマ大統領は尖閣諸島問題を大きく意識しているようには見えなかった。ところが中国の海洋進出は近年ますます先鋭化しており、中国船による尖閣沖の領海侵入や、南シナ海でのベトナムやフィリピンとの衝突、防空識別圏設定などの問題が顕在化しており、サイバーテロや、経済摩擦等の問題も含めて、中国に対する日米共同の強い牽制姿勢を示す必要があるとの認識で両国が一致したわけだ。今回の首脳会談により09年の米民主党政権誕生以来ギクシャクしていた日米関係はほぼ修復を果たしたと云えるだろう。

日米関係の強化を内外に誇示するためには、リーダーによる演技や、それなりのパフォーマンスも求められる。4月28日に安倍首相を歓迎する晩餐会がホワイトハウスで開かれたが、両首脳ともユーモア溢れるスピーチで会場を沸かせた。晩餐会では、安倍首相の地元山口県の銘酒「獺祭」が振る舞われたほか、ハワイ育ちで日本通のオバマ大統領は、日本語を交え挨拶し、突然「きょうの日を祝い、ここで一句ハイクを詠んでみたいと思います」と切り出した。

Spring, green and friendship

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号
日本証券業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

United States and Japan

Nagoyaka ni

オバマは、「私はハイクを詠んだ初めての大統領です」と述べ、参加者は拍手喝采を送ったが、困ったのは随行の日本記者団で、苦勞しつつ各社各様に翻訳している。韻を踏んでいるのは産経だが、ここは筆者が朝日新聞に次いで嫌いな毎日新聞訳が、いちばん臨場感があったような気がする。

産経新聞: 春若葉 日米友情 和やかに

日経新聞: 春緑 日米友好 和やかに

時事通信: 春、緑と友情、米国と日本、和やかに

毎日新聞: 春、緑と友情、米国と日本、ナゴヤカニ(和やかに)

オバマ大統領の挨拶に応えた安倍首相のユーモアも秀逸であった。

「一昨日、昨日と演説の練習を部屋でしたのですが、妻はもう私の演説を聞き飽きたと云って、実は昨日は別々に寝ることになりました」

安倍首相はオバマ大統領と出席者全員に瀬祭で乾杯し、満座の雰囲気をもたせ、スピーチの猛練習をしたことを正直に白状しているが、これは政治家にとっては当たり前の作業だ。

こんな話がある。1969年、米国ニクソン大統領がフランスを訪問したとき、ドゴール大統領が実に見事な即興のスピーチをした。あとでアメリカ代表団の誰かが、スピーチを誉めたときドゴールはこう答えた。

「いや、まず原稿を書き、暗記してからそれを捨てたのです。チャーチルも同じようにしていたが、それを認めなかった点だけが私と違う」(「指導者とは」リチャード・ニクソン 文藝春秋)

中国は国内の安定を図るため、引き続き対外強硬路線をとるか、強硬路線のポーズをとり続ける必要がある。中国も韓国もロシアも自国の国益追求に精一杯で、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」なんて寝惚けたことを叫んでも、諸国民は誰も相手してくれないのが国際政治の現場である。中国に対峙するための日米両国の最大の切り札は強固な日米関係の構築にあり、その基礎をなすのが両国国民の友情である。安倍オバマ会談は中国に少なからぬショックを与えたと同国の関係筋は語っている。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成27年12月16日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号

日本証券業協会 加入

本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

① 株式の手数料等およびリスクについて

- ・ 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2420% (税込み)、最低 3,240 円 (税込み) (売却約定代金が 3,240 円未満の場合、約定代金相当額) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。
- ・ 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 0.8640% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

② 債券の手数料等およびリスクについて

- ・ 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③ 投資信託の手数料等およびリスクについて

- ・ 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④ 株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- ・ 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0864% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- ・ 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.320% (税込み)、最低 2,700 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号
日本証券業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040